

## 平成 26 年度第 2 回常務理事会議事録

日 時： 平成 26 年 10 月 17 日（金） 15：00～17：35

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

常務理事：青木 大輔、加藤 聖子、吉川 史隆、木村 正、藤井 知行、峯岸 敬、  
八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

特任理事：齋藤 滋、種部 恭子、南 佐和子、宮城 悦子

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

第 69 回学術集会長：工藤 美樹

理事会内委員会委員長：片渕 秀隆、竹下 俊行、竹田 省、水沼 秀樹

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹 事：上田 豊、加藤 育民、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、佐藤 美紀子、  
佐藤 豊実、下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、  
西ヶ谷 順子、増山 寿、松村 謙臣、三好 博史、矢幡 秀昭、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名のうち 11 名（苛原稔理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

冒頭に本会発刊書籍のネット販売に関して、運営会社となる杏林舎から販売スキームおよび運営費用について説明があり、その後、質疑が行われた。

**吉川裕之理事**「年間販売部数が 18,200 部というのは何年間の平均を取っているのか。」

**杏林舎の担当者**「3 年間の平均で見ている。」

**小西郁生理事長**「書籍の送料は含まれているのか。」

**杏林舎の担当者**「現在のやり方と同様、税・送料込みでお示ししている。」

**嘉村敏治監事**「カード会社の手数料はどのくらいか。」

**杏林舎の担当者**「カード会社にもよるが、販売額の 3.6%から 4.7%なので平均すると 4%強になる。  
またコンビニでの決済の場合は 1 売上げに対して税込み 320 円になる。」

I. 平成 26 年度第 1 回常務理事会議事録（案）の確認  
原案通り、承認した。

## II. 業務担当常務理事報告

### 1) 総 務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2)第 66 回学術集会に係る研究助成金について [資料:総務 1]

**岩下光利副理事長**「第 66 回学術集会の収支は、研究助成金 2,500 万円支出後で 2,215 万円の黒字となる。しかし 7 月の Satellite Seminar of the 66<sup>th</sup> JSOG の費用や学術委員会などの費用を合わせると公 1 事業としては 1,800 万円の赤字となり収支相償は遵守される。ここでは研究助成金を 2,500 万円とすることをご了承いただきたい。」

本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

**平松祐司副理事長**「学術集会はここ 1~2 年、黒字となる可能性があるが、これを FIGO 誘致のための準備金として使うことはできないか。」

**岩下光利副理事長**「各公益事業の事業目的を十分に考慮して判断していきたい。」

(3)平成 27 年度 (2015 年度) 日本産科婦人科学会日程表 (確定版) について [資料:総務 2]

**岩下光利副理事長**「9 月の理事会で決定した本会日程表を確定版としてお示ししている。」

(4)第 70 回学術集会長の立候補を 9 月 30 日に締め切り、1 名の立候補があった。

(5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①厚生労働省健康局結核感染症課より、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関の選定および研修の実施について、本会に協力の依頼があった。

[資料:総務 3、4]

**小西郁生理事長**「HPV ワクチンの副反応相談体制について厚生労働省に提案してきたが、今回その枠組みが決まり、体制構築が進んでいる。産婦人科はその一つの窓口として対応することになる。」

②9 月記者会見で報告した HPV ワクチン接種後の診療・相談体制に関して、副反応に悩む患者および家族から 10 件程度の抗議の電話があった。

③日本病理学会から、卵巣腫瘍取扱い規約改訂小委員会への 6 名の委員の推薦を受けた。

[資料:総務 5]

④日本婦人科腫瘍学会から卵巣がん治療ガイドライン 2015 版への後援名義使用依頼を受領した。本件はまず婦人科腫瘍委員会で内容を確認したい。[資料:総務 6]

**青木大輔委員長**「婦人科腫瘍委員会で確認して、何か重要な意見が出れば理事会に諮ることとしたい。」

(ハ) 周産期委員会

①厚生労働大臣あてに、「フィブリノゲン濃縮製剤の止血困難な後天性低フィブリノゲン血症への早期適応追加の要望書」を提出したい。[資料:総務 7]

**岩下光利副理事長**「従来より効果の高い濃縮製剤を使うということで、要望を出す意味はある。」

**齋藤滋特任理事**「以前の血液製剤が問題になった頃と違って感染症対策は十分になされている。当時の薬剤と現在の薬剤とは本質的に違っていることを強調して要望書に入れてはどうか。」

本会議で指摘された内容を織り込んで一部修正した上で要望書を提出することについて、特に異議はなく全会一致で承認された。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況について

10 月 7 日現在、入金済 8,140 冊。

#### (6)e 医学会について

**阪埜浩司副幹事長**「現在、本会のシステムを新しい専門医制度に適合させるための検討を行っている。eラーニングはすでにスタートしているが、来年3月にはeカードを配付し、4月以降、研修歴をこのカードで管理する仕組みをスタートさせ、来年夏以降の研修会はシールとカードの併用とする予定である。その次に専門医の異動を把握するための電子媒体を使った会員管理、専門医の研修記録のデータ管理、電子申請などためのシステム構築が必要になるが、これには相応の費用がかかると思われる。12月の理事会にはお諮りできるようにしたい。」

### 〔Ⅱ. 官庁関係〕

#### (1) 厚生労働省

- ①同省健康局結核感染症課および雇用均等・児童家庭局母子保健課より、母子保健法施行規則の一部改正と母子健康手帳の記載事項の取扱いの通知を受領した。本会機関誌に掲載して会員に周知したい。[資料:総務8]
- ②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、12月2日開催の第14回健やか親子21推進協議会総会の開催案内を受領した。この総会で池田智明先生が同協議会副会長に選出される予定である。[資料:総務8-1]
- ③同省医薬食品局血液対策課より、「献血血液の研究開発等での使用に関する指針」の一部改正および同指針に基づく公募の実施について、会員への周知依頼を受領した。機関誌に掲載して周知したい。[資料:総務8-2、8-3]
- ④同省医政局研究開発振興課より、再生医療等安全性確保法の課長通知案についてパブリックコメントを求めている旨（締切10月19日）の通知を受領した。[資料:総務8-4]

### 〔Ⅲ. 関連団体〕

- (1)日本臨床救急医学会から、妊産婦の救急時対応として、産婦人科医と救急医療従事者が連携して救急医療体制やガイドライン作りなどを行う合同委員会を立ち上げかどうか、との提案を受領した。[資料:総務8-5]

**岩下光利副理事長**「医療安全推進委員会委員長の竹田省先生に委員をお願いしたい。」

**木村正理事**「救急の先生方が非常に大きな負担を負うということもないし、重症妊婦の対応を産科と救急で共同でやると安全度が高まるので、ぜひ進めるべきである。」

**藤井知行理事**「日本周産期・新生児医学会もこの件に関して委員会を立ち上げているので、合同で進めるとよいと思う。」

竹田省先生に委員をお願いし、日本周産期・新生児医学会を含めて共同にて取り組むことにつき、特に異議はなく全会一致で承認された。

- (2)日本糖尿病・妊娠学会および日本糖尿病財団より、本年12月7日に秋田県において開催する糖尿病予防キャンペーンへの後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

### 〔Ⅳ. その他〕

- (1)一般社団法人日本マタニティフィットネス協会が主催する「マタニティ&ベビーフェスタ2015」(2015年4月4~5日、パシフィコ横浜)の後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負

担はなく、これを応諾したい。

**木村正理事**「日本マタニティフィットネス協会はどのような団体か。」

**竹田省委員長**「このフェスタは毎年 4 月に開催しており、後援名義使用を許可している。本会会員も運営に関わっており、問題ない。」

(2) 一般社団法人日本化学工業協会より、「日化協 新 LRI (長期自主研究)」研究課題の募集についての案内を受領した。[資料:総務 9]

(3) NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議が主催する国際市民セミナーについて、同会議理事の栗谷しのぶ弁護士から、会員への案内依頼を受領した。[資料:総務 10]

(4) NHK 制作局科学環境番組部から、本年 12 月に放送予定の「おしえて! ガッカイ」の制作のため、学会員にアンケート形式の質問に回答いただきたいが、学会の一斉メールで本件を会員に周知していただけないか、との依頼があった。本件、応諾したい。[資料:総務 11]

**片瀧秀隆委員長**「この夏に放映されていたが、非常に面白く、良い番組であった。」

本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

(5) 小西郁生理事長が、NPO 法人ひまわりの会 (野田聖子会長) から、母子保健に尽力した団体・個人を顕彰する「ひまわり褒章」を受賞した。

## 2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

## 3) 学 術 (峯岸敬理事)

### (1) 学術委員会

(イ) 平成 26 年度日本医師会医学賞、医学研究奨励賞の受賞者発表があり、本会が推薦した旭川医科大学の宮本敏伸会員が医学研究奨励賞を受賞した。

### (ロ) 各賞推薦・応募について

#### ① 学術奨励賞に関する会告について

学術奨励賞の推薦、応募方法に関する会告を機関誌 66 巻 8 号に掲載、推薦の期間は平成 26 年 10 月 1 日から 10 月 31 日である。

#### ② 優秀論文賞に関する会告について

優秀論文賞の応募方法に関する会告を機関誌 66 巻 8 号に掲載、応募の期間は平成 26 年 12 月 10 日から平成 27 年 1 月 9 日である。

### (2) プログラム委員会関連

#### (イ) 第 67 回学術講演会プログラム委員会

8 月 6 日より一般演題の応募を開始、9 月 30 日締切、10 月 1 日から 6 日正午まで応募内容の修正期間であった。

#### (ロ) 第 68 回学術講演会プログラム委員会

特別講演演者推薦、シンポジウム担当希望者公募を機関誌 66 巻 8 号に掲載した。特別講演演者推薦の期限は 11 月 28 日、シンポジウム担当希望者公募の期限は 1 月 20 日である。

(ハ) 第 69 回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム課題公募を機関誌 66 巻 8 号に掲載した。期限は 11 月 28 日である。

#### 4) 編集 (藤井知行理事)

(1) 会議開催

①10 月 17 日に和文誌編集会議ならびに JOGR 全体編集会議を開催した。

②10 月 17 日に第 67 回担当校・(株)コングレ・杏林舎・事務局による第 67 回学術講演会抄録集 (67 巻 2 号) の打合せを行った。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2014 年投稿分 (9 月 30 日現在)

Accept	106 編
Reject	525 編
Withdrawn/Unsubmitted	170 編
Under Revision	24 編
Under Review	142 編
Pending	0 編
Expired	3 編
投稿数	970 編

(3) 日産婦誌オンラインジャーナルに関して下記事項を検討する予定である。

①国立情報学研究所電子図書館サービス終了予定に伴い、J-Stage または他社のオンラインシステムへの移行について

②本会ホームページで学会機関誌のオンライン化を行っているが、論文に関して会員だけの公開にするかそれともオープンアクセスにするか

③学会ホームページでの公開時期について

**藤井知行理事**「オンラインジャーナルのホームページでの公開は、機関誌が郵便で会員に届くタイミングに合わせるようにしたい。」

(4) JOGR 投稿時の日産婦会員からの和文抄録同時登録について

JOGR に掲載された日産婦会員からの投稿については、JOGR 掲載後に請求して和文概要を執筆していただき英文機関誌に掲載しているが、JOGR へ英文を投稿する際にあわせて和文概要を添付していただくようなシステム変更について、JOGR 編集会議ならびにワイリーとも相談のうえ、検討を進めたい。

**藤井知行理事**「本会会員の accept をワイリーがチェックして本会に通知することにして、JOGR へ英文を投稿する際にあわせた和文概要添付は求めないこととした。」

(5) 厚生労働省班研究 藤井知行班長からの依頼を受けて、サイトメガロウイルス妊娠管理マニユ

アルを本会機関誌に同封することとしたい。[資料:編集1]  
本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

## 5) 渉外 (木村正理事)

### (1) 会議開催

12月12日に第2回渉外会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

### (1) FIGO Working Group on Breast Disease への委員推薦について [資料:渉外1]

**木村正理事**「日本産婦人科乳腺医学会理事長の苛原稔先生に委員の推薦をお願いしている。」

### (2) FIGO World Congress 2021 招致について

#### ①横浜開催の意義について [資料:渉外2]

**木村正理事**「来年4月末にFIGOにBid Paperを出す際には首相、厚生労働大臣などから推薦状をいただく必要があり、横浜開催の意義についてまとめたペーパーを作成したい。ご意見あればお願いしたい。」

#### ②途上国からの参加者支援のための基金について (日産婦学術集会における募金実施、等)

#### ③途上国若手医師フェロー受け入れについて (1 大学1 国サポート)

#### ④日本人参加者を増やすための方策について (登録費積立、日産婦学術集会との併催、等)

**木村正理事**「Bid Paperには収支案や学会で行うサービスを示す必要がある。資金面でのFIGOのメリットや途上国へのサポートとなる参加者支援のための基金設定、途上国若手医師フェロー受け入れ、参加者増加施策等についても言及したい。」

#### ⑤2015年4月のBid paper 提出に向け、FIGO2021 招致委員会 内に「Bid paper 作成ワーキンググループ」を設置し、木村正招致委員会委員長のほか、岩下光利委員、平松祐司委員、青木大輔委員、岡本愛光委員、加藤聖子委員、藤井知行委員、峯岸敬委員、清水幸子委員、上田豊委員、増山寿委員にワーキンググループ委員を委嘱したい。

#### ⑥横浜へのサイトビジットについて [資料:渉外2-1]

**木村正理事**「先方は来年1月22～24日を希望しているが、その日程だとパシフィコ横浜がイベントで使用されていて十分に見られないので1月19～21日ではどうかと提案している。」

**吉川裕之理事**「FIGOは活動資金獲得が一つの目的だろうが、本会としてはFIGOにすべて吸い上げられないような仕掛けを考える必要がある。」

**木村正理事**「企業の寄付についてはある程度期待できるのではないか。」

**岩下光利副理事長**「前回、日本に誘致した時も募金委員会を組成して取り組んだ。FIGO に対してはそのような姿勢を見せる必要はある。」

**木村正理事**「募金いただいた方には参加費を下げるなどのスキームを考えたい。また若手医師フェローの受け入れは、日本に留学生を受け入れるきっかけになればよいと書きたいと思う。」

FIGO 2021 招致の取り組みにつき特に異議はなく全会一致で承認された。

(3) FLASOG (La Federación Latinoamericana de Sociedades de Obstetricia y Ginecología) Congress 2014 (9月14～19日、エクアドル)におけるFIGO World Congress 2021 招致活動について  
[資料: 渉外 3]

(4) 次回 Executive Board meeting (2015年5月30～31日) について、RANZCOG 主催によりオーストラリア メルボルンでの開催が決定した。

[その他]

(1) ドイツとの Exchange Program について

**木村正理事**「来年はドイツから4人の教授が学術集会に来る。また2名の若手は3カ月程度滞在する予定だが、その内容を詰めている。」

(2) カンボジア支援/JICA 草の根技術協力について、JICA 東京、藤田則子先生、矢野哲先生を交え協議の結果、今年度第2回募集に応募することとした。

(3) 第14回日韓ジョイントカンファレンス進捗状況、および同カンファレンス日本開催時の費用負担について [資料: 渉外 4-1、4-2]

**嘉村敏治監事**「カンファレンスは4月10日13:30～16:30に実施される予定だが、プログラム、スケジュール、招待者や謝礼、渡航費の負担などについてご承認いただきたい。」  
本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

**峯岸敬理事**「費用負担については担当校、渉外が折半する形で進めたい。ほかにもドイツ、台湾などもあるので、将来的には日韓も国際的なプログラムの一つとして考えてはどうか。今回の学術集会では2日間にわたって国際的なプログラムを走らせようと考えている。日本が欧州、米州、アジアのハブになれるようなポジションを取って行ければ意味があると思うので今後、検討させていただきたい。」

**嘉村敏治監事**「賛成である。FIGOの誘致でグローバルな展開が進んでいるので、これを機に次回から峯岸先生のご提案のようなことを考えていくとよいと思う。」

**平松祐司副理事長**「日韓台などには歴史があるのですぐには難しいかもしれないが、他でもやっている国際的なシンポジウムという形で誰でも入って来られるような仕組みを考える時期になっているように思う。」

(4) 11月28～29日に開催のカンボジア産婦人科学会に、Exchange programの一環として本会より、木村正渉外担当常務理事と上田豊渉外主務幹事を派遣し、カンボジア支援活動に関する協議を行い

たい。国立国際医療研究センター病院 矢野哲先生も同行の予定である。  
本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

## 6) 社 保 (青木大輔理事)

### (1) 会議開催

10月17日の常務理事会後、第2回社保委員会を開催の予定である。

(2) 外保連より、外保連ニュース第23号に掲載の「先進医療から保険収載された技術」の特集記事として「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)(K879-2)」の執筆依頼を受け、藤井多久磨委員が原稿執筆することとなった。[資料:社保1]

## 7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

### (1) 第3回中央委員会について

第3回中央委員会を9月21日に開催し、平成26年度専門医認定二次審査結果、専門医資格更新・再認定審査結果、卒後研修指導施設指定審査結果を協議した。

#### ① 専門医認定二次審査

申請者:491名、受験者:筆記試験487名(東京259名、大阪228名)、欠席者:2名、面接試験426名(東京227名、大阪199名)、欠席者:2名、合格者:420名(東京224名、大阪196名)、一次審査不合格者:1名(東京)、二次審査不合格者:68名(東京36名、大阪32名)であった。

[資料:専門医制度1、2]

最終的な合格率は86.0%となった。合格者については機関誌66巻11号と本会ホームページに掲載する予定である。

#### ② 専門医資格更新審査

更新申請は1,587名で、申請後退会者1名と更新延期願に変更した2名を除き、合格は1,580名、不合格4名であった。[資料:専門医制度3]

#### ③ 専門医資格再認定審査

・再認定申請は28名で、合格は27名、不合格は1名であった。[資料:専門医制度4]

・新規申請者・更新申請者・再認定申請者ともに、申請者宛に9月20日付で審査結果を通知し、新規申請合格者は専門医登録が済み次第認定証を送付した。更新申請合格者・再認定申請合格者は地方委員会あてに10月1日付で認定証を送付した。

#### ④ 専門医資格更新延期願

資格更新延期願申請は19名あり、延期可は17名、延期不可は2名であった。

[資料:専門医制度3]

#### ⑤ 専攻医研修指導施設指定審査

・新規申請施設は7施設で、合格施設5施設、不合格施設2施設であった。

[資料:専門医制度5]

・更新申請施設は52施設で、合格施設35施設、不合格施設6施設、保留11施設であった。

[資料:専門医制度6]

・新規指定申請施設、更新申請合格施設は、施設長あてに10月1日付で指定証を送付した。

#### ⑥ 専攻医指導施設区分変更申請審査



- ・専攻医指導施設区分の連携型から総合型への変更申請のあった施設は4施設、総合型から連携型への変更申請のあった施設は1施設で、変更可施設は5施設であった。[資料：専門医制度7]  
施設区分一覧は学会ホームページに掲載する予定である。

(2) 日本専門医機構

- ①同機構より、11月17日開催の第1回社員総会の案内状を受領した。本会からは吉川裕之委員長が出席予定である。

**吉川裕之理事**「9月30日に第1回基本領域連携委員会が開かれ、2015年から日本専門医機構が専門医更新料10,000円を取ることが明らかになった。学会側も決して業務は減らない一方、機構も会議を行うための費用が要る、という状況になっている。また指導医には機構の新専門医の資格が必要という考え方だが、この運用には難しい問題を含んでいる。」

**藤井知行理事**「繰り上がって専門医の更新ができれば、新指導医は増えるのではないかな。」

**吉川裕之理事**「機構には繰り上げる方針はないようである。」

- ②産婦人科領域専門研修施設基準(案)を日本専門医機構に提出した。[資料：専門医制度8]

**吉川裕之理事**「資料8の内容で暫定的に機構に提出してよいか、ご議論いただきたい。」

**藤井知行理事**「基幹施設の指定基準で、婦人科悪性腫瘍の年間30件に比べて分娩の年間150件はアンバランスにハードルが低いのではないかな。」

**吉川裕之理事**「分娩件数の少ない大学があることに配慮した。」

**八重樫伸生理理事**「婦人科悪性腫瘍について、大学はすべてクリアしている。」

**加藤聖子理事**「『生殖・内分泌および女性ヘルスケアについて専門性の高い診療実績を有している』というのはどう考えればよいか。」

**吉川裕之理事**「現在の総合型施設の条件と同じである。」

**小西郁生理理事長**「大学であれば基幹施設になる、というルールはありえないが、しかし大学病院には基幹施設になってもらう必要がある。」

**木村正理事**「大学では複雑な分娩もあるので、ポイント制を取ってはどうか。」

**吉川裕之理事**「ポイント制など、複雑にすると運営が難しいという結論であった。本案はこれで提出して、追加の意見をいただいたらマイナーチェンジを行っていきたい。」

本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

- (3)外科系の専門医制度と連携したデータベース事業について [資料：専門医制度9]

**吉川裕之理事**「外科は、同科で行った全手術をデータベースに登録している。整形外科や脳外科、泌尿器科もこれに加わるという話もある。本会としても、専門医制度を運営するために必要なデータベースを独自に構築するのか、この外科のデータベース事業に加わって進めるのかを近々判断する必要が出てきた。」

**平松祐司副理事長**「外科に比べて産婦人科はデータベース管理が遅れている。この件についての本会の今後の方向性を議論いただきたい。」

**八重樫伸生理理事**「外科は5億円をかけて9学会共同でこのデータベースを作った。専門医における研修管理や保険診療の評価などに使われている。」

**阪埜浩司副幹事長**「このデータベースは全例登録であり、専門医に必要なのはその一部である。これの問題点は大きな費用がかかること、インプットが非常に大変であることである。」

**片瀧秀隆理事**「外科には、がんをまとめて登録して解析しようという目的もあると思われる。」

**落合和徳監事**「様々な利用が可能なのだが、一度、理事会などで説明を聞いてみてはどうか。」

**小西郁生理理事長**「阪埜先生を中心に総務にワーキンググループを作って引き続き検討していきたい。」

## 8) 倫理委員会 (苛原稔委員長欠席につき、桑原章主務幹事)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 26 年 9 月 30 日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：62 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：592 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：592 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：538 施設
- ⑤ 医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する登録：5 施設
- ⑥ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

10 月 6 日現在申請 426 例 [承認 361 例、非承認 7 例、審査対象外 23 例、取り下げ 3 例、照会 25 例、審査中 7 例] (承認 361 例のうち 9 例は条件付)

(3) 「生殖医療に関する遺伝専門医認定小委員会」において、『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医』の登録申請に基き審査を行い、新たに 41 名を認定し学会ホームページに氏名を掲載した。

(4) 会議開催

- ① 10 月 15 日に「PGSに関する小委員会ワーキンググループ」を開催した。
- ② 11 月 11 日に「平成 26 年度第 3 回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
- ③ 11 月 25 日に「平成 26 年度第 4 回倫理委員会」を開催する予定である。

(5) 日本生殖医学会からの本会 ART データの提供依頼があったが、これは次回の倫理委員会で検討する予定である。[資料:倫理 1]

## 9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

10 月 31 日	第 67 回学術講演会 Workshop for Junior Fellows 打合せ会
-----------	--

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS 版並びに Android 版タブレット端末専用) : 10 月 7 日現在

必修知識 2013 単体	233
用語集単体	98
必修知識 2013+用語集	167
合計	498

書籍版 : 10 月 7 日現在

	入金済み (冊)	校費等後払い(冊)
産婦人科研修の必修知識 2013	2,451	12
用語集・用語解説集改訂第 3 版	2,555	8
若手のための産婦人科プラクティス	2,531	2
専門医筆記試験に向けた例題と解説集 2014	650	4

(3) 日本妊娠高血圧学会から、本会用語委員会の委員として高木健次郎先生の推薦を受けた。  
[資料 : 教育 1]

(4) 第 2 回理事会にも提議したが、学会発刊書籍のネット販売を考慮したい。

- ①見積書を受領したが、手数料については 3.2%、その他は実費となる。以前に教育委員会で検討した時よりも宅急便の料金が若干低くなっているのは、発送代行会社を変更して現在使っている会社よりも大手にしたためである。[資料：教育2]
- ②システムの概要について [資料：教育3]
- ③本常務理事会で承認をいただければ、平岩弁護士にも相談して契約締結に向けた契約内容の精査に入りたい。

**八重樫伸生理事**「会員への利便性向上の面もあるが、そもそものスタートは書籍販売について事務局の負担が大きくなっていることへの対応でもある。これにかかる費用は必要経費と考えたい。」  
本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

- (5) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産科医師育成奨学基金の奨学生募集を開始した(締切：12月15日/募集人数：8名)。  
10月2日に西日本地域大学の産婦人科教授・学長(学部長)・学生課にアナウンスを行った。
- (6) 平成27年度専門医認定試験問題作成委員会について  
9月28日に53名の委員の先生方に試験問題の作成を依頼した(11月28日締切)。なお、例年通り委員の氏名公表は差し控えることとしたい。
- (7) 「専門医筆記試験に向けた例題と解説集(産婦人科研修の必修知識2013補遺)」追加問題解説について  
来年6月をめどに、120問程度の追加問題ならびに解説を発刊予定である。なおこの追加問題については、「専門医筆記試験に向けた例題と解説集(産婦人科研修の必修知識2013補遺)」の付録とし、特にそれ単独での販売は行わない。  
解説の執筆については、山梨大学 平田修司教授に一任し山梨大学の若手の先生にお願いする。

#### 10) 地方連絡委員会 (平松祐司委員長)

- (1) 若手医師のリクルートについての地方学会での取組みおよび新規入会する際の手続き内容を把握するため、運営委員会と共同して地方連絡委員に対してアンケートを実施している。  
[資料：地方連絡1]

### III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

##### (1) 会議開催

10月16日に第2回広報委員会を開催した。

**加藤聖子委員長**「e医学会の登録率アップのため、一斉配信メールの実施やeラーニングの動画リンクなどを行っている。ワーキンググループを作ってこの問題に取り組むことにしている。また会員専用ページのアクセス数が少ないので機関誌にチラシを入れることとした。さらに広告を取るに当たって、本会には広告指針がないので作成したい。」

##### (2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

②『社会医療法人鹿児島愛心会 大隅鹿屋病院』のJOBNET掲載依頼について[資料：広報2]

本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

(3) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報4]

**加藤聖子委員長**「以前、ログイン数が少ないという意見があったので、推薦論文をJOCRとともに載せ

るようにしたが、ACOG のログイン数には変化がなかったが、JOGR のログイン数は増加している。」

## 2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

(1) 女性の健康手帳について [資料：未来ビジョン1]

**平松祐司委員長**「『HUMAN+女と男のディクショナリー』は9月26日に完成し、5万部印刷した。また本会ホームページにも掲載した。山形、三重、岡山などの成人式や女性の健康週間で配付し、アンケートを取って修正を加え、来年には完成版として配付しようと考えている。この手帳は内閣府でも高い評価を受けており、各地方自治体に推薦の通達が出ている。ただ共同で作成しているリクルートおよびハーゼストには今年は増刷せずホームページで対応して、来年度広く配付したい意向がある。ただ今後の展開を考えて内閣府からはこの手帳の定価を聞かれている。実費に加えてサイトでの展開に掛かる費用を考えた値段にしたいと思うがご意見をいただきたい。」

**吉村泰典監事**「内閣府には地方交付金の未使用分を充当してはどうかとの意見があり、学会として値段を決めてくれると地方自治体にも言いやすいということである。また文部科学省からも『良いものを作ってくれた』と感謝されている。政府から推薦していただけるが地方自治体との実際の交渉は自分が行うことになる。リーズナブルな範囲での値段設定にしていきたい。」

女性の健康手帳の配付方針について、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) 新しいプロモーションサイトについて

**平松祐司委員長**「10月14日に女性ヘルスケアのインフォグラフィックスが完成した。12月までに残りの2本を完成させ、今後の展開について理事会に諮る予定である。」

## 3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 福島への医師派遣について [資料：震災対策1]

**岩下光利委員長**「まだ回答をいただいていない大学もあるので、よろしく願いたい。」

(2) 災害対策 Web ページと会員ページ (e 医学会) との会員情報の連携機能について

[資料：震災対策2]

**岩下光利委員長**「e 医学会から災害対策サイトに入る際に会員情報を取れるようにシステムを改変するための費用をお認めいただきたい。」

本件につき特に異議はなく全会一致で承認された。

## 4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」頒布状況について (10月7日現在)

書籍版：7,762冊

書籍版+ID/PW付き：3,601冊

電子版ダウンロード：1,432件

② 第1回委員会を10月1日に開催した。

(2) 産科編評価委員会 (増崎英明委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2014」頒布状況について (10月7日現在)

書籍版：5,250冊

書籍版+ID/PW付き：3,053冊

電子版ダウンロード：1,210件

② 第1回委員会を10月29日に開催する予定である。

(4) 婦人科外来編評価委員会（青木大輔委員長） 特になし

5) コンプライアンス委員会（工藤美樹委員長） 特になし

6) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（片渕秀隆委員長）

(1) 会議開催

12月10日に第3回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。

(2) 9月26日に日本医師会女性医師支援センター「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」が開催され、清水幸子副委員長、北澤正文主務幹事が出席した。[資料：男女共同1]

**片渕秀隆委員長**「女性医師支援への取り組みは各大学で充実してきているが、学童保育はまだ少数である。さらなる改善充実策が必要である、ということであった。」

(3) 女性の健康週間2015について

①プレスセミナーについて [資料：男女共同2]

②丸の内キャリア塾について [資料：男女共同3]

③地方学会担当市民公開講座について [資料：男女共同4]

**片渕秀隆委員長**「同じテーマ、日程という条件を満たしているのは現時点で3か所であり、締切の10月31日を待って対象地方学会には、補助額を上げて対応したい。」

(4) 第67回産婦人科学会学術講演会における委員会企画（4月11日、15:00-17:00）について

8) 若手育成委員会（齋藤滋委員長）

(1) 会議開催

10月24日に第8回産婦人科サマースクール若手医師反省会を行う予定である。

(2) 産婦人科サマースクールに関連して

今回、80名の医学部学生の参加を断る結果となったため、金・土を医学部学生、土・日を初期研修医とする案が可能かどうかを議論した。3日間に会期を延長することは講師の負担も大きいため、現状通り2日間の開催で行うこととした。ただし各地域の産科婦人科学会で、できるだけ医学部学生を対象とした取り組みをしていただけるよう啓発することにした。

**峯岸敬第67回学術集会長**「サマースクールの参加を断ることになった医学部学生には、来春の学術集会で医学生フォーラム会場の後方にシミュレータを置くので優先的に参加してもらってはどうかと考えている。」

**齋藤滋委員長**「若手育成委員会で本件への具体的な対応について検討したい。」

(3) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

下記の通りの内容で募集を開始した。

前回までとの変更点は

1. 参加しやすいように参加費を2万円から15,000円に減額した。
2. 託児施設も準備した。

第5回産婦人科スプリング・フォーラム

「社会に求められる新たな産婦人科医のあり方」

会期：平成27年3月7日（土）[12時集合]～8日（日）[14時30分解散予定]

会場：開催場所：京都 平安ホテル

募集人数：70名程度（応募者多数の場合は地域性等参考に抽選となります）

募集期間：平成26年10月15日～12月20日（応募用紙学会必着）

参加費：15,000円（1泊3食ならびに受講費）

#### 9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長）

- (1) 大道正英先生より申請のあった研究課題「婦人科悪性腫瘍に対する治療がおよぼす生活習慣病・骨密度への影響に関する疫学調査」についての臨床研究審査報告書を提出した。

[資料：臨床審査1]

#### 10) 医療安全推進委員会（竹田省委員長）

- (1) 9月24日に日本医療安全調査機構の臨時社員総会が開催され、竹田省委員長が出席した。

竹田省委員長「同機構は、医療事故調査の第3者機関である医療事故調査支援センターの受け皿になる予定であり、同機構を公益法人にすることが提案され、承認された。来年度の分担金は本年と同額の172万円である。」

- (2) 大分県中津警察書から出産に関する教示依頼を受領した。

#### 11) 公益事業推進委員会（竹下俊行委員長）

- (1) 本会を紹介するリーフレットの作成について

竹下俊行委員長「寄附を募るに当たって本会を紹介するリーフレットを検討している。広報委員会と協力して進めたい。」

#### 12) 情報管理委員会（久保田俊郎委員長） 特になし

#### 13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

- (1) 会議開催

平成27年2月27日に第3回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

#### IV. その他

以上